現況分析における顕著な変化についての説明書

教　育

平成２２年６月

名古屋大学

目　　次

13. 医学部　1

名古屋大学医学部

整理番号	48-13-1

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　**名古屋大学**　　学部・研究科等名　**医学部**

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目　事例６「学習指導上の工夫や、主体的な学習を促す取組み」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

名古屋大学医学部では、学生の主体性向上や医師・研究者としての資質の向上を目指して学習指導上の工夫と改革に常時取り組んでいるが、特に平成 20 年度及び 21 年度からは、以下のような改革を実施し、医学生教育の質の向上を図っている。このような教育改革に対して４年次の学生アンケート調査では 84.3%の医学部学生が「当大学の医学部教育改革対策」に「評価している」と回答している。

A. 優れた医師を養成するための取組

（１）１年次の早期体験実習にシャドーイングを導入

１年次の早期体験実習（医学入門）の一環として、学生が臨床系教員の臨床活動現場に一対一で密着して終日活動を共にする医療の実体験を通じて、将来の臨床医としての学習意欲と自覚を高めることを目標に、「シャドーイング」プロジェクトを開始した。初年度の試行を経て、２年目の 20 年度からはこの教育指導方法を軌道にのせた。その結果、平成 20 年度医学部医学科入学者の 75.8%、平成 21 年度入学者の 80.2%が「臨床医についての理解を深める上で役立った」とアンケートに回答している。学生のレポートにも体験から得られた数多くの感動が記載されており、学習への動機付けへの効果が上がっている。

（２）４年次の基本的臨床技能実習に接遇教育を導入

４年次の基本的臨床技能実習に平成 20 年度より「接遇教育」を導入している。医療現場での協調性や礼節の涵養を医学教育に盛り込み、医療現場でのスタッフや患者とのコミュニケーションの改善対策を進めている。平成 21 年度に実施したアンケート調査では、本学習の目標が明確と理解した学生は 90.5%、その学習方法が適切と感じた学生は 80.9%と高い数値を得ており、医療現場での接遇の重要性を多くの学生に体得させた効果が出ている。

B. 優れた医学研究者を養成するための工夫

（１）「メディカルサイエンスカフェ」による基礎研究への動機付け

研究者志向の学生を育成するため、１年次生を対象に、基礎・社会医学系教員が基礎研究の魅力を実体験に基づいて語る課外授業「メディカルサイエンスカフェ」を開設した。カフェの形式をとることにより、学生と研究者の距離感を縮め、研究者の情熱が伝わる機会を充実させた。平成 20 年度医学部医学科入学者の 44.4%、平成 21 年度入学者の 40.4%が参加した。授業アンケートの問い「研究や研究者についての理解を深める上で役立ったか」に 83.8%が「Yes」と回答するなど学生の高い評価を得ている。

（２）サマースチューデント制度による研究現場の体験

１年次と２年次の夏休みに、意欲ある学生が自主的に基礎・社会医学系の研究室で実際の研究現場をじかに体験する「サマースチューデント」制度を平成 20 年度に設けた。単位認定が無いにもかかわらず、平成 21 年度には医学部医学科の学生 15 人が神経情報薬理学、分子腫瘍学、ウイルス学など基礎医学系の 12 の研究室で研究を体験し、その多くは期間終了後も引き続き研究に参加している。参加学生への「研究や研究者についての理解を深める上で役立ったか」の質問に 90.2%が「Yes」と回答しており、教育上の成果が十分に期待できる。

C. 国際性豊かな医師・医学研究者を養成する取組

（１）卒業生の協力による派遣留学プログラムの充実

６年生が海外提携校で臨床実習を行う派遣留学生制度（毎年 10 人以上の学生を世界 15 カ所の施設に派遣）を従前より実施し、学生から高い評価を得ている。平成 20 年度より、この派遣プログラムの効果を高めるため、派遣前の学生に対し、過去に同制度で派遣され現在医療・研究の現場で活躍している卒業生が、海外での医学実習について体験に基づき英語でレクチャーする取り組みを開始した。年齢の近い卒業生から直接に話をきくことができるユニークな試みとして、平成 21 年 3 月 24 日の東海テレビで取り上げられ、大きな注目を集めた。